

シベリア抑留体験語り部 原田二郎氏の逝去について

シベリア抑留者体験者として舞鶴引揚記念館で語り部活動をされていた原田二郎（はらだ じろう）さん（綾部市安国寺町）が7月29日午前3時頃に逝去されましたのでお知らせいたします

原田二郎氏 略歴

大正13年（1924）11月17日 綾部市生まれ
昭和20年（1945）陸軍に志願して満州に渡る
昭和20年（1945）終戦から2か月後、ソ連軍によってハバロフスクの収容所に連行され、建築や荷役の労働に従事させられる。
歌手の三波春夫さんと同じ収容所で親交があった。
昭和24年（1949）11月下旬に舞鶴へ帰還
平成20年（2008）舞鶴・引揚語りの会 入会
語り部として、特に若い世代への語り継ぎに尽力
令和3年（2021）7月29日逝去 96歳

※娘さん（山下真由美さん）も引揚記念館の「語り部養成講座」を受講し平成28年「舞鶴・引揚語りの会」に入会されています

※7月31日（土）に通夜、8月1日（日）に告別式が綾部市にて家族葬により執り行われるとお伺いしております。

原田さんの思い出（舞鶴引揚記念館 館長 山下美晴）

原田さんは、昭和24年に舞鶴港へ引き揚げられ、平成20年から引揚記念館で語り部活動をしていただいているNPO法人「舞鶴・引揚語りの会」の会員として、最後まで現役で語り部活動を続けていただきました。特に、市内小学生のふるさと学習や市外からの教育旅行の際には体験談や平和の大切さを語っていただき、次世代への継承に本当にご尽力いただきました。

「どうしたら、子供たちに伝わるだろうか、いつも悩むんや」と言われ、抑留中に食べられた植物（アカザやタンポポ）を実際に持ってこられて子どもたちに見せられる姿やお話の最後には必ず子どもたちに「風邪ひくなよ、元気でおれよ」とお声をかけられたことなど、懸命に伝えていただきましたお人柄も素晴らしい方でした

引揚記念館としても原田さんの想いを引き継ぎ、次世代への継承にも一層取り組んでいきます

【お問い合わせ先】

舞鶴引揚記念館：☎0773-68-0836、FAX0773-66-0370
E-Mail：hikiage@city.maizuru.lg.jp

